

新たな時の始まり

ルカによる福音 2:16-21

(そのとき、羊飼いたちは)急いで行って、マリアとヨセフ、また飼葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。その光景を見て、羊飼いたちはこの幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。聞いた者は皆、羊飼いたちの話をも不思議に思った。しかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

八日たって割礼の日を迎えたとき、幼子はイエスと名付けられた。これは、胎内に宿る前に天使から示された名である。

2:8 その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。

2:9 すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。

2:10 天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。

2:11 今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。

2:12 あなたがたは、布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」

2:13 すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。

2:14 「いと高きところには栄光、神にあれ、／地には平和、御心に適う人にあれ。」

2:15 天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。

きょうの福音の前段でルカは羊飼いたちの様子をこのように伝えています。

14節の天の大軍の歌はわたしたちが礼拝の最初に歌う「大栄光のうた、グロリア」の前半です。主日の礼拝をとおしてわたしたちはいつもこの天使とともにとつぜん現れた天の大軍に習って大栄光のうたで神を賛美しています。

さて、マリアとヨセフは旅の途中、住民登録のためにエルサレムに向かう道中に産気づき、宿もとれずに産んだ赤ちゃんを布につつみ飼い葉おけ落ちて着かせたばかりのところでした。そこに羊飼い達がやってきて、赤ちゃんを確かめると、夜半にもかかわらずまわりの人々に天使のことばをつたえます。天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」 2:10-12

これを聞いた人たちは「聞いた者たちは不思議に思った」とありますが、この不思議に思うとはびっくりした、驚いた、という意味とともにいぶかしんだ、怪しんだという意味も含まれているようです。

この羊飼い達のいった天使のお告げに対してのマリアの反応は「これらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた」です。マリアは不思議なことに対しては「心に納める、思い巡らす」という反応をします。おおげさに反応する様子はありません。

わたしも時折むかしのできごとを思い出し、おもに失敗した出来事なのですが、そのことについて思い巡らす（ようは反省するのですが）ことがあります。そのときはどうしてよいのかわからず、あたふたしてしまい失敗する、あとでなんかの拍子ににその出来事の意味に気づく。そのことを思い巡らす。（反省し教訓を得ることもある）あとで気づいても文字通り、後の祭りなのですがそのような体験が多々あります。

さて福音では羊飼いたちは天使のお告げの実現を自分たちの目で確かめると「神をあがめ、賛美しながら」歌をうたいながら帰っていきました。福音書には記録されていないのですが、彼らが去った後に幼子によりそう静かなマリアとヨセフの姿が浮かんできます。

同じように主の傍らにそっと留まり、この時から始まった新たな時の流れ、

世界の中に流れ始めた真の命の流れを聞き分けましょう。今日から始まるこの1年が幼子イエスからの恵みと祝福に満たされますように。
